

V. B テーバイ王家

カドモスの孫たち

- ペンテウス(アガウエの息子)とディオニューソス(セメレの息子) (Ap. 124 末 2 - 25. 10, 127. 4-10)
宗教的不遜への徹底的攻撃／狩る者が狩られる者になる／母が息子を殺す(引き裂く)
「のぞき」に来た者が spectacle の主人公になる (Eur. 『バツカイ』)

- アクタイオン(アウトノエの息子) (Ap. 126. 1-8)
猟犬が主人を殺す(引き裂く)、慕う者が攻撃者に変ずる

オイディプスの周辺

- ライオスとイオカステとオイディプス
父母が子を殺そうとする／子が父を殺し、母と交わる
母は自らを殺す → 息子は… 自身が捜査のえじきになる、自分の目をつぶす

Soph. 『オイディプス王』

みな神託を尊重し善処に努めるが、最悪の事態が避けられない。下人・羊飼いのあわれみも仇となる。
オイディプスの知恵と努力は、禍いの回避に役立たず、ただ禍いを顕在化させて自分と周りを苦しめるばかり。 ——いかに最善を尽くしても避けられない難儀あり。人の知恵はたかが知れている。

- ポリュネイケスとエテオクレス (Aeschyl. 『テーバイ攻めの七将』、Eur. 『嘆願する女たち』)
父親の呪いのもとに兄弟あい争い殺しあう、他国(アルゴス)へ下った Polyneikes が祖国に反逆、敵の死骸の処分の問題

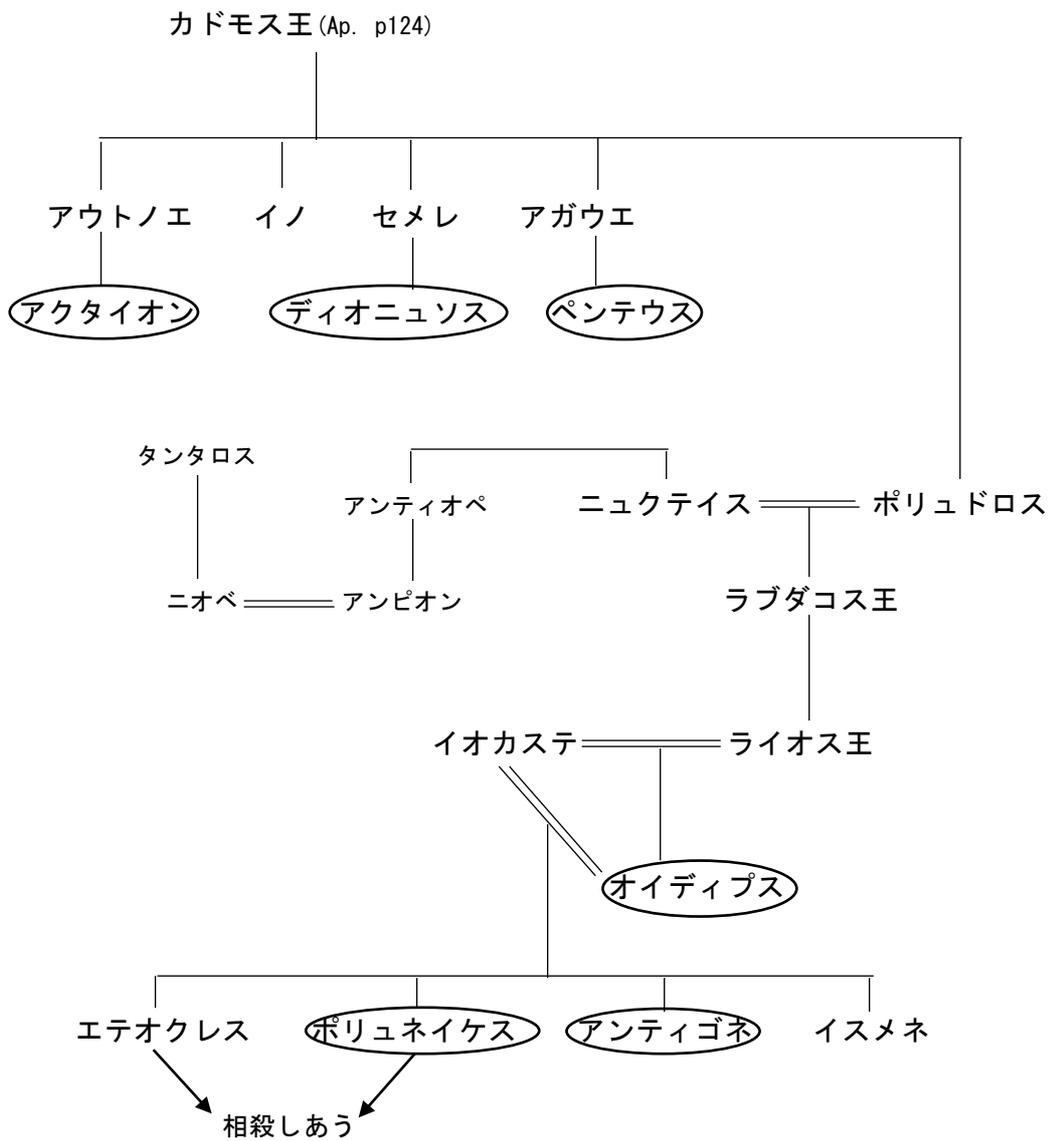
- アンティゴネ
追放された父オイディプスを献身的に介護 (Soph. 『コロノスのオイディプス』)
兄弟の骸を命がけで守ろうとするが、命をはることが叶わない自分を殺す (Soph. 『アンティゴネ』)

→ アテナイ王テセウスの出番

オイディプスをアテナイのコロノスに引き取る (Soph. 『コロノスのオイディプス』)
アルゴス軍の死骸をテーバイが奪還する (Eur. 『嘆願する女たち』)

☆親しい者、身内、自身に危害を加えること多し(近親姦も呪いも)

(次頁：テーバイ王家系図)



次回 オルフェウスとエウリュディケ
 Ap. 32 末 4-33.1
 Bulf. 245-49
 アルケステイス
 Ap. 55.8-56.2
 Bulf. 238-40